

調査の概要

(1) 調査の目的

- ア 府内の児童生徒の学力及び学習状況の向上の観点から、大阪府教育委員会・各市町村教育委員会が府内における児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 各学校が、教育の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、その教育指導の改善に役立てる。
- ウ 児童生徒一人ひとりが自らの学習の到達状況を正しく理解し、学力や生活に目標を持ち、その向上への意欲を高める。

(2) 調査内容

I…教科に関する調査

- 小学校： 国語A・算数A（主として「知識」に関する問題）
国語B・算数B（主として「活用」に関する問題）
- 中学校： 国語A・数学A（主として「知識」に関する問題）
国語B・数学B（主として「活用」に関する問題）
英語（主として「知識」・「活用」に関する問題）

II…アンケート調査

児童生徒対象・学校対象

(3) 調査対象

- 小学校第6学年（高石市：7校 児童数：629人）
- 中学校第3学年（高石市：3校 生徒数：532人）

(4) 調査実施日

平成23年6月14日（火）

(5) 調査結果の取扱いについて

- 本調査は、競争を目的とするものではなく、すべての子どもたちの学力や学習状況を把握し分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的としている。
- 本調査により測定できる学力は特定の一部であり、学校における教育活動の一側面を示すものである。

平成23年度 本市の校種・教科・区分別正答率

小学校		平均正答率	
		高石市（公立）	大阪府（公立）
国語	A区分	89.0	88.1
	B区分	67.0	64.9
算数	A区分	65.7	63.4
	B区分	53.1	51.2

中学校		平均正答率	
		高石市（公立）	大阪府（公立）
国語	A区分	67.1	69.0
	B区分	51.6	53.2
数学	A区分	60.5	62.1
	B区分	37.2	38.7
英語		57.5	61.1

上表の本市平均正答率の数値データは、市内の全小学校・全中学校のデータに基づいて表しています。

平均正答率からわかる本市小・中学校別結果の概要について

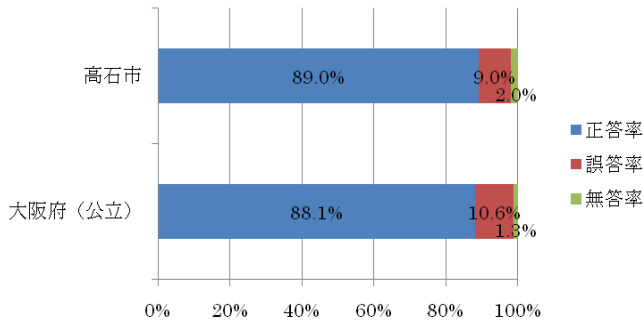
- ◇小学校A区分（主として「知識」に関する問題）については、国語・算数ともに大阪府平均を上回る結果が出ています。B区分（主として「活用」に関する問題）についても、国語・算数ともに大阪府平均を上回る結果となっています。
- ◇中学校A区分・B区分については、国語・数学ともに大阪府の平均を下回っています。また、英語についても、大阪府平均を下回る結果となっています。

各教科に関する調査結果（高石市）の概要 【小学校】

小学校国語

結果から見えてくる課題

小学校国語A区分

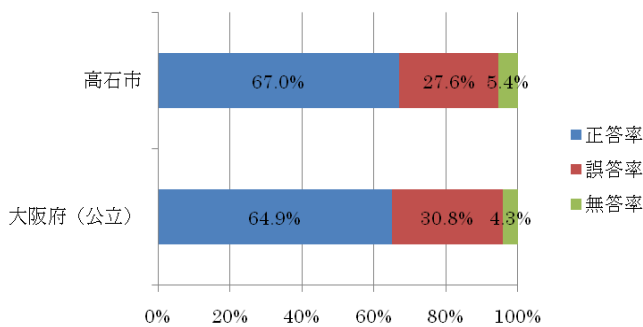


A区分問題（主として「知識」に関すること）

◆大阪府の正答率が88.1%であるのに対し、高石市は89.0%であり、0.9ポイント上回った。

◆無答率においては、大阪府よりわずかに高い。

小学校国語B区分



B区分問題（主として「活用」に関すること）

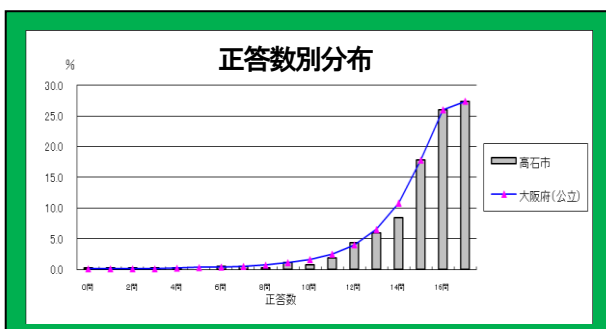
◆大阪府の正答率が64.9%であるのに対し、高石市は67.0%であり、2.1ポイント上回った。

◆無答率においては、大阪府より高い。

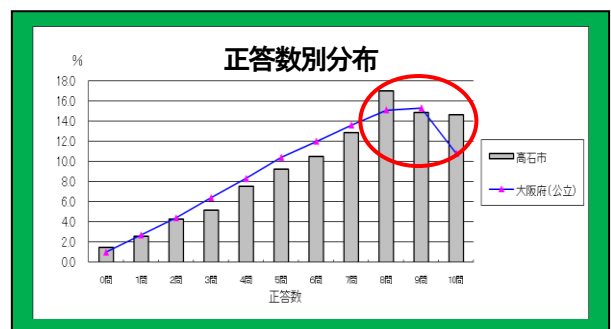
◆正答数の分布については、下のグラフ①《緑色枠》より、ほぼ大阪府と同じ傾向であることがわかります。特に、B区分では、大阪府と比較すると8問・10問の正答数の割合が上回っています。
 ◆領域別にみると、次ページのグラフ②《黄色枠》より、A区分・B区分の正答率を大阪府と比較すると、ほとんどの項目で上回っていますが、B区分の「言語事項」の分野では、大阪府を下回る結果になっています。

グラフ①

国語 A 区分(主として「知識」に関する問題)

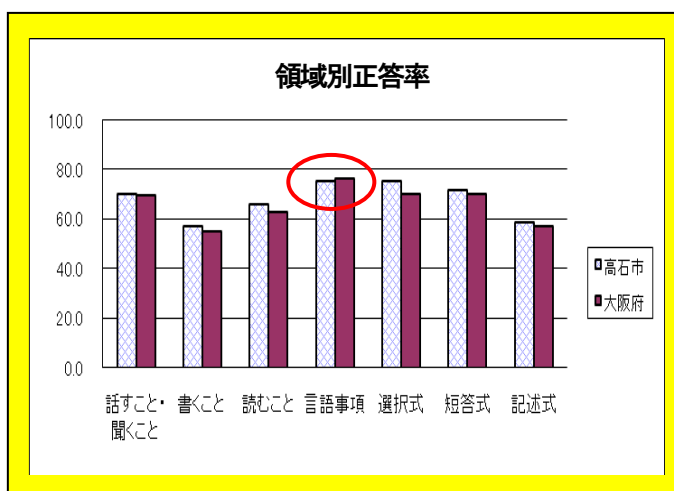
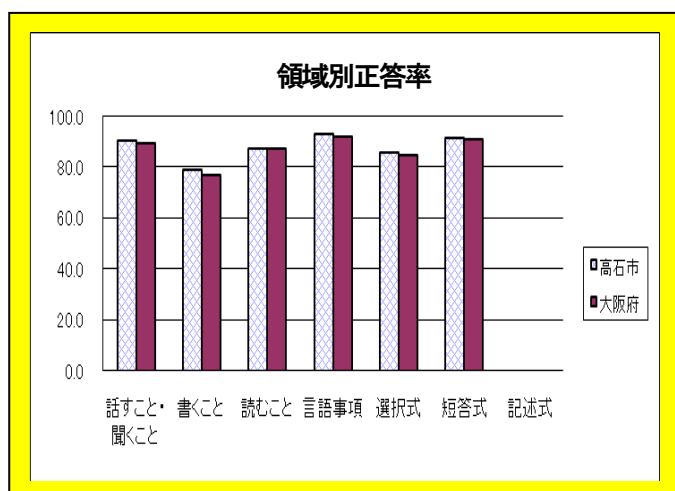


国語 B 区分(主として「活用」に関する問題)



国語 A 区分(主として「知識」に関する問題)

国語 B 区分(主として「活用」に関する問題)



A 区分に見られる課題等について

- ◆A 区分では、「言語事項」の領域、「短答式」の問題形式である「漢字を読む・書く」等の問題で全体的に高い正答率となっておりますが、一方で無答率は大阪府より高くなっています。また、「相手や目的に応じたていねいな表現に書きなおす」問題についても、正答率が高いものの、無答率も高くなっています。
- ◆文章を読んで、「物語の登場人物の心情をとらえる」、「文章の内容を的確にとらえる」といった「読むこと」の問題では、大阪府とほぼ同様の傾向であるものの、比較すると正答率が低い、無答率が高い、などの課題が見られます。

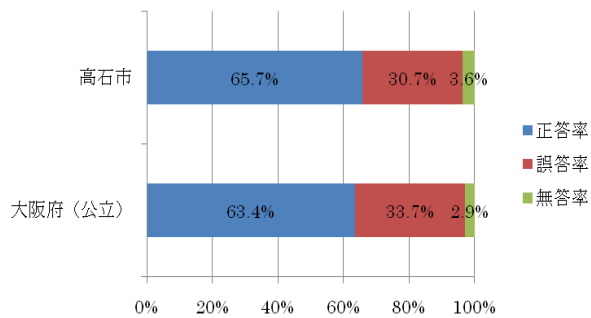
B 区分に見られる課題等について

- ◆B 区分(主として「活用」に関する問題)において、正答数の分布はほぼ大阪府と同じ傾向であることがわかります。また、正答数の高位層の割合が大阪府を上回っていますが、一方で低位層の割合でも大阪府を上回っています。
- ◆領域別にみても、全体的に大阪府より正答率は高くなっています。しかし、同時に無答率も高い傾向にあります。よく理解できている子どもと、理解が不十分な子どもの二極化になっていることがうかがえます。
- ◆「目的や意図に応じた表現に書きなおす」や「文章の内容にふさわしい絵を選び、その理由を書く」問題について、課題が見られます。
- ◆文章や図、グラフが複合的に組み合わさった問題文から、「目的に応じて必要な情報を適切に取り出し、与えられた条件にそって答えを書く」といった「マルチモーダル」な問題についても課題が見られます。
(P. 17参照)

小学校算数

結果から見えてくる課題

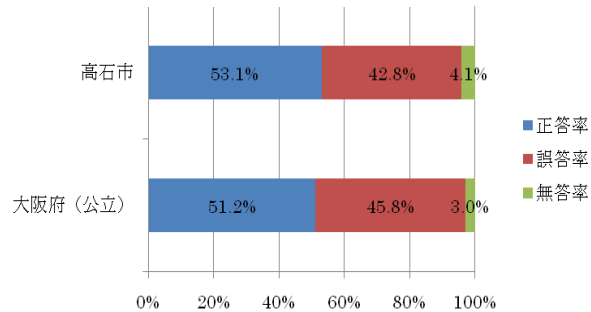
小学校算数A区分



A区分問題（主として「知識」に関すること）

- ◆大阪府の正答率が63.4%であるのに対し、高石市は65.7%であり、2.3ポイント上回った。
- ◆無答率においては、大阪府よりわずかに高い。

小学校算数B区分



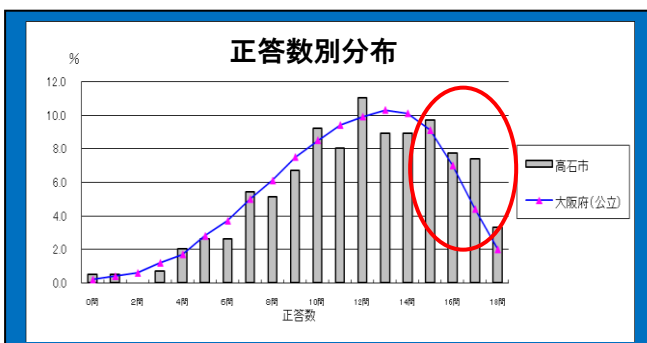
B区分問題（主として「活用」に関すること）

- ◆大阪府の正答率が51.2%であるのに対し、高石市は53.1%であり、1.9ポイント上回った。
- ◆無答率においては、大阪府より高い。

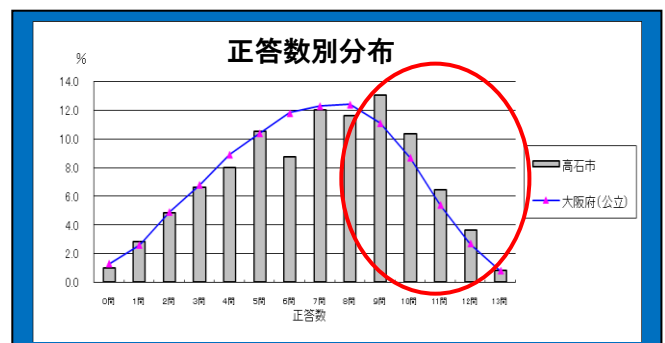
- ◆正答数の分布については、下のグラフ③《青枠》より、ほぼ大阪府と同じ傾向であることがわかります。特にA区分では、15～18問の、B区分では、9～13問の正答数の割合が大阪府を上回っています。しかし、一方で正答数の低位層の割合でも大阪府を上回っています。
- ◆領域別にみると、次のページのグラフ④《桃色枠》より、A区分・B区分ともに、全ての項目で大阪府を上回っています。

グラフ③

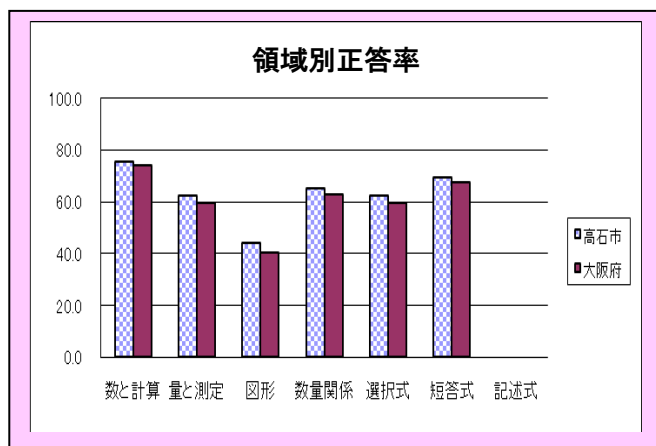
算数A区分(主として「知識」に関する問題)



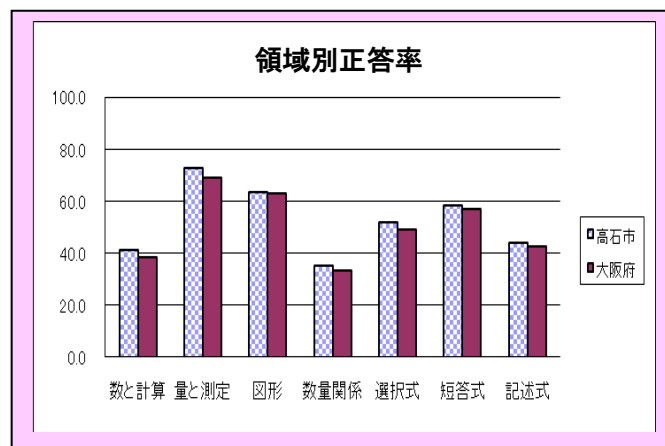
算数B区分(主として「活用」に関する問題)



算数 A 区分(主として「知識」に関する問題)



算数 B 区分(主として「活用」に関する問題)



A 区分に見られる課題等について

- ◆A 区分において、正答数の分布はほぼ大阪府と同じ傾向であることがわかります。また、正答数の高位層の割合が大阪府を上回る一方で、低位層の割合でも同様になっています。
- ◆領域別にみても、全体的に大阪府より正答率は高くなっています。しかし、同時に無答率も高い傾向にあります。
- ◆数と計算領域の正答率では、大阪府とほぼ同様の傾向がみられます。しかし、市の結果からは、「整数－小数」の問題で正答率が低い、「わりきれるまで行うわり算」の問題で無答率が高いという結果が出ています。また、他の領域でも「概数」、「図形の長さ」、「円周率」などの理解を問う問題について、正答率が低く、無答率の割合が大阪府より高くなっています。中でも「三角柱の同じ長さの辺の数を求める」問題では正答率が大幅に低くなっています。(P. 18参照)
- ◆資料を2つの観点から分類整理し、表を用いて表す問題についても、2年前の調査に引き続き課題が見られます。

B 区分に見られる課題等について

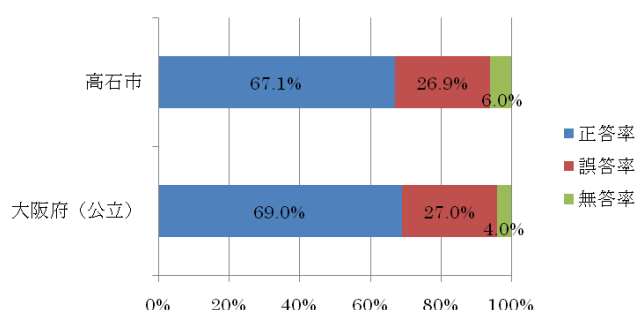
- ◆B 区分において、正答数の分布はほぼ大阪府と同じ傾向であることがわかります。また、正答数の高位層の割合が大阪府を上回る結果になっています。
- ◆領域別に詳しく見ると、大阪府とほぼ同様の傾向であるものの、「四則計算の考え方を説明する」、「計算のきまりを見つける」、「割合の変化を説明する」といった「数量関係」の問題、「条件に合った正三角形のしきつめた形を作図する」という「図形」の問題について課題が見られます。
- ◆「与えられた条件に合う最も適した組み合わせを考え、計算する」問題では、正答率は大阪府を上回っているものの、課題が見られます。ただし、無答率も、低い割合になっており、難しい問題にあたって、解答を記述しようとする姿勢で取り組んだ様子が見えます。

各教科に関する調査結果（高石市）の概要 【中学校】

中学校国語

結果から見えてくる課題

中学校国語 A 区分

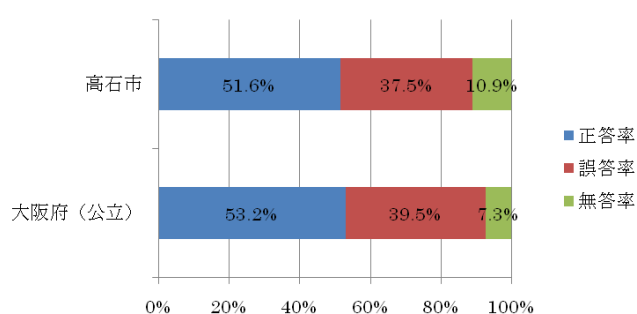


A 区分問題（主として「知識」に関すること）

◆大阪府の正答率が69.0%であるのに対し、高石市は67.1%であり、1.9ポイント下回った。

◆無答率においては、大阪府より高い。

中学校国語 B 区分



B 区分問題（主として「活用」に関すること）

◆大阪府の正答率が53.2%であるのに対し、高石市は51.6%であり、1.6ポイント下回った。

◆無答率においては、大阪府より高い。

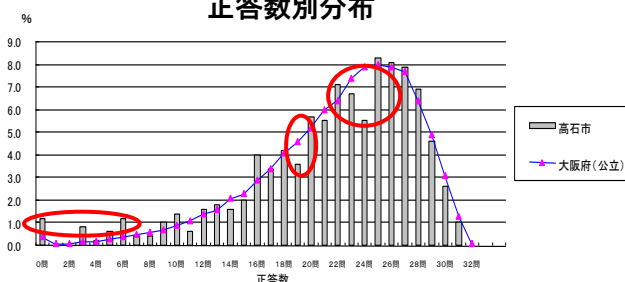
- ◆正答数の分布については、下のグラフ⑤《綠色枠》より、大阪府と同様な傾向が見られるものの、A 区分については中位層から低位層の割合が高く、B 区分については低位層の割合が高くなっています。
- ◆次ページのグラフ⑥《黄色枠》より、大阪府と比較すると A 区分については、「話すこと・聞くこと」の領域で、B 区分では、「書くこと」の領域、「記述式」の領域で特に課題が見えます。

グラフ⑤

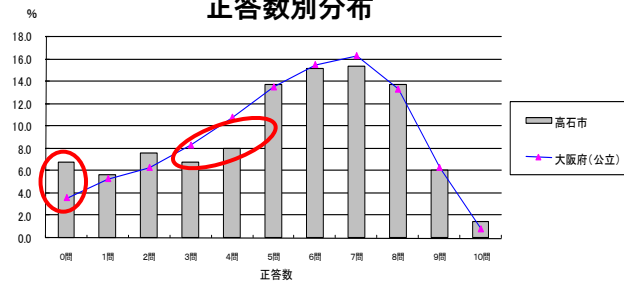
国語 A 区分（主として「知識」に関する問題）

国語 B 区分（主として「活用」に関する問題）

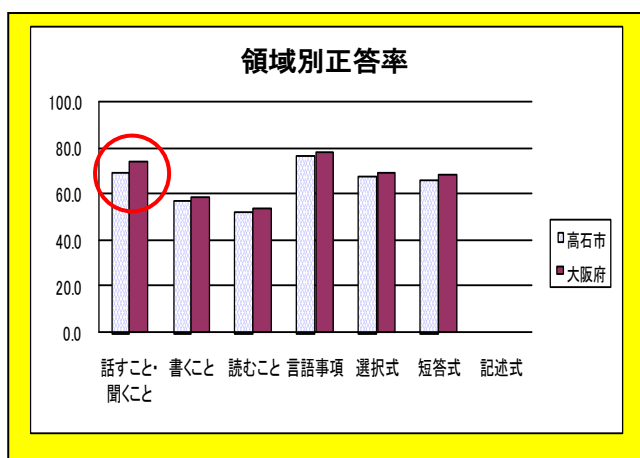
正答数別分布



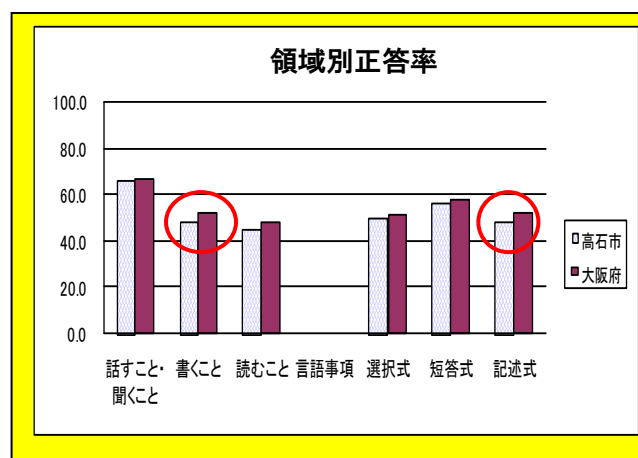
正答数別分布



国語 A 区分(主として「知識」に関する問題)



国語 B 区分(主として「活用」に関する問題)



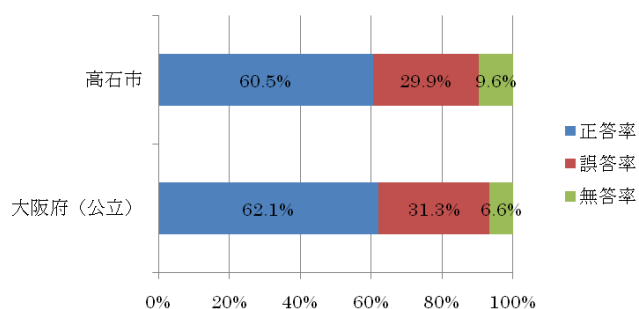
A 区分に見られる課題等について

- ◆2年前の調査でも見られたように、「主語（主部）に合わせて述語（述部）の部分を書き正す」問題では、大阪府の正答率を上回ったものの、正答率そのものが低く、課題として考えられます。
- ◆基本的な語句でありながら、一部の生徒にとっては、日頃聞きなれていない、または聞くことが少なくなった言葉の読み・書きなどの問題の正答率が低くなっています。一方、古文の問題では、大阪府より高い正答率となったものも見られました。
- ◆文章の読み取りを苦手とする生徒が多く、課題が見られます。（P. 19参照）
- ◆2年前の調査でも課題であった無答率について、大阪府より高い傾向が続いています。

B 区分に見られる課題等について

- ◆B区分では、「与えられた資料から必要な情報を取り出す」問題について、全体的に課題があります。「文章を理解し、説明する」問題や「グラフの意味の読み取りと文章の読み取りの両方を求められる」問題でも、読み取った情報をうまく整理して記述できずに誤答している場合が見られます。
- ◆「記述式」の問題では特に無答率が高い傾向が強くなります。今後、「文章の意味をつかんで読むこと」等に慣れるとともに、「書くこと」の活動についてさらに取組んでいく必要があります。

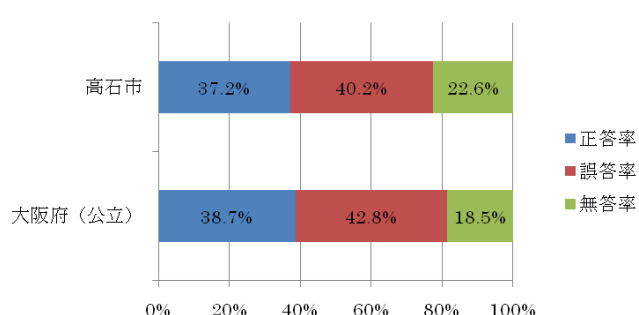
中学校数学A区分



A区分問題(主として「知識」に関すること)

- ◆大阪府の正答率が62.1%であるのに対し、高石市は60.5%であり、1.6ポイント下回った。
- ◆無答率においては、大阪府より高い。

中学校数学B区分



B区分問題(主として「活用」に関すること)

- ◆大阪府の正答率が38.7%であるのに対し、高石市は37.2%であり、1.5ポイント下回った。
- ◆無答率においては、大阪府より高い。

◆次のグラフ⑦《青色枠》より、A区分では正答数0問の人数の割合が大阪府と比較しても高くなっていることがわかります。今回の大阪府の状況は、A区分では、一つの山の曲線に、B区分では、なだらかな二つの山の曲線を描いていますが、これに対し、本市ではA区分、B区分ともに分布にばらつきが見えます。また、高位層及び低位層の割合が高いことが本市の特徴となっています。

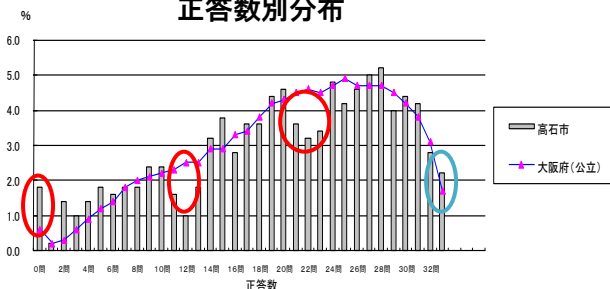
◆領域別にみると、次ページのグラフ⑧《桃色枠》より、正答率を大阪府と比較すると全体的に若干低くなっています。特に、A区分・B区分ともに、「図形」の領域で、他の領域より課題があることがわかります。

グラフ⑦

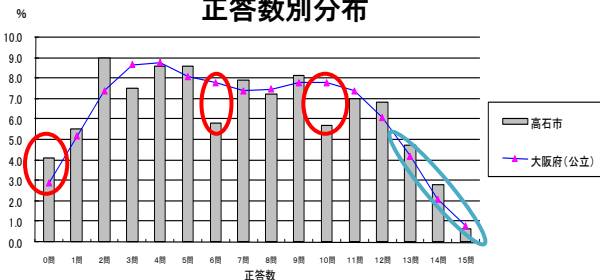
数学A区分(主として「知識」に関する問題)

数学B区分(主として「活用」に関する問題)

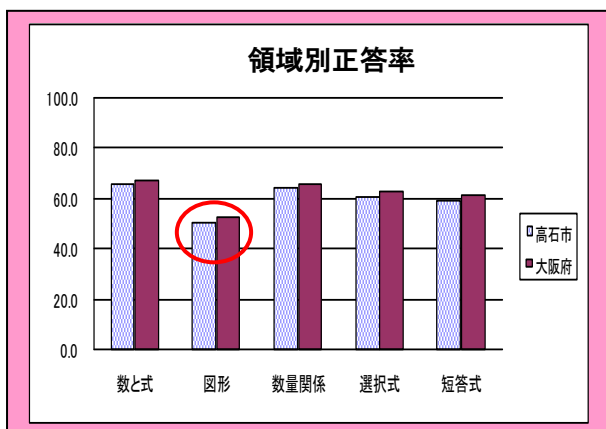
正答数別分布



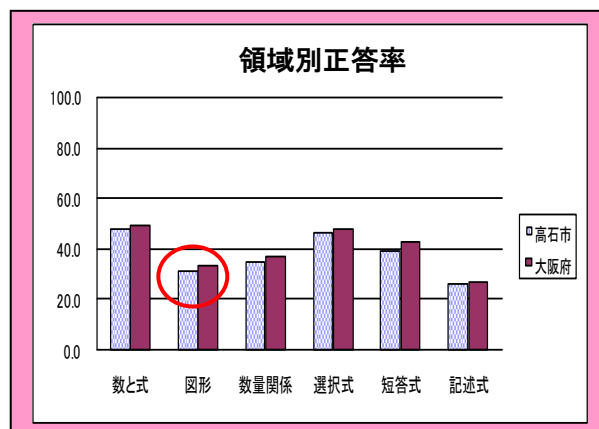
正答数別分布



数学 A 区分(主として「知識」に関する問題)



数学 B 区分(主として「活用」に関する問題)

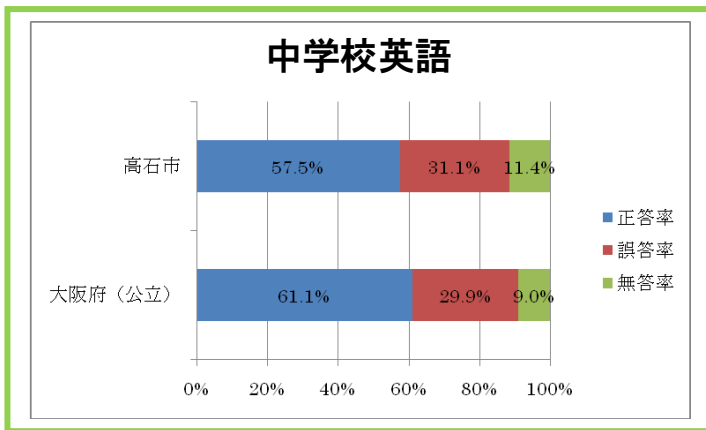


A 区分に見られる課題等について

- ◆領域別にみると、A 区分の正答率で、全体的に大阪府より下回っています。特に、「図形」の領域（P. 20参照）では、大阪府より下回るとともに正答率そのものも低く、課題が見えました。また「選択式」「短答式」の問題形式どちらも、大阪府をわずかずつ下回る結果となりました。
- ◆問題別にみると、「次数の計算」や「グラフの意味の読み取り」に課題が見られます。一方、これまでの全国学力・学習状況調査等で課題があった「二元一次方程式」の問題では正答率が大阪府より上回る結果となりました。

B 区分に見られる課題等について

- ◆領域別では、B 区分の正答率でも、全体的に大阪府よりわずかずつ下回っているとともに、無答率が高いことに課題があります。特に「図形」の領域で「平行四辺形の性質の理解」について課題が見られました。平行四辺形だけでなく図形の基本的性質の理解を振り返る活動や自分の言葉で説明する活動が、今後の学習において求められます。
- ◆問題別にみると、過去の調査で課題と考えられた「資料から読み取る」問題で正答率が大きく大阪府を上回りました。一方、「その答えが導き出される根拠や、答えの意味を説明する」という問題のような記述式になると大阪府より大きく正答率が下がる結果が見られました。今後も、考え方の筋道を立てて答えを導き出す活動をさらに積み重ねていく必要があります。

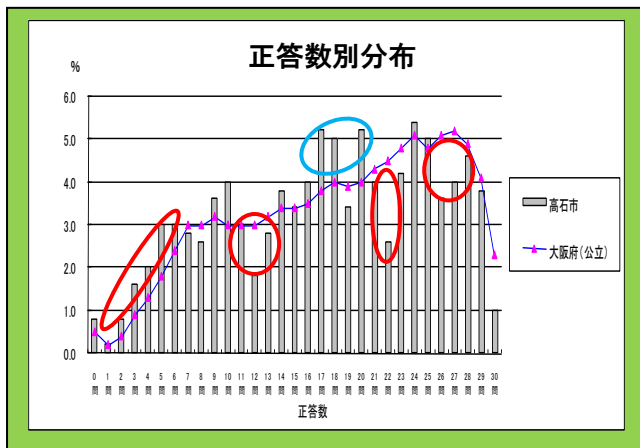


中学校英語問題

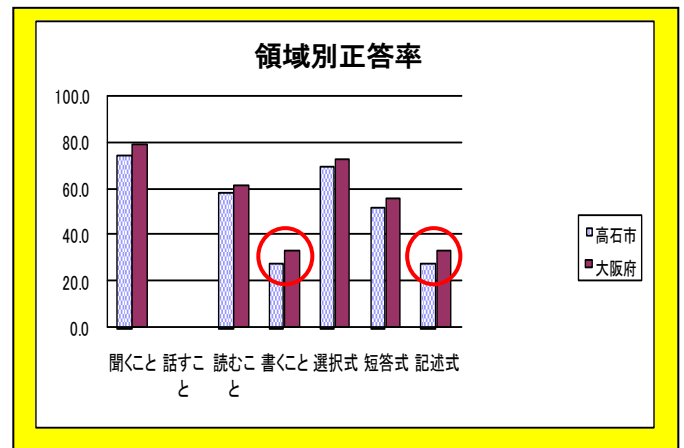
- ◆大阪府の正答率が61.1%であるのに対し、高石市は57.5%であり、3.6ポイント下回った。
- ◆無答率においては、大阪府より高い。

- ◆下のグラフ⑨《緑色枠》より、正答数2~6問の割合が大阪府と比較して高くなっていることが分かります。また、正答数の分布については、大阪府が台形に近い二つの山の曲線を描いているのに対し、本市では分布にばらつきが見えます。特に、中位層でその傾向が顕著に見られます。
- ◆領域別にみると、次のグラフ⑩《黄色枠》より、全体的に大阪府と比較すると正答率が下回っています。特に、「書くこと」の領域、「記述式」の問題形式に課題があることが分かります。

グラフ⑨



グラフ⑩



中学校英語に見られる課題等について

- ◆領域別にみると、全体的に大阪府より、本市の正答率が下回りました。
- ◆問題別にみると、記述式全般に課題があるとともに基本的な単語の活用等にも課題が見られました。また、文章と資料の読み取りの両方が求められる問題（P. 21 参照）を苦手とするなどの課題もあります。今後、より一層学習をした内容を定着させる取組みと学習したことを使って表現する活動が必要であると考えます。日頃より、使える英語力を意識した学習が必要と言えます。

児童・生徒アンケートからわかる4つの傾向

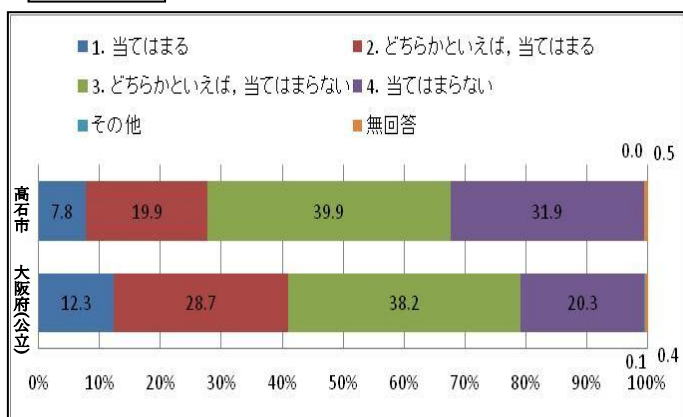
傾向1：授業における、ICT機器や本を活用した調べ学習、放課後学習等の補充学習が着実に実施され、子どもたちにも浸透してきている。

〔グラフ1〕より、小学校よりも中学校において、「調べ学習が行われている」と感じる子どもが増えています。教え込みではなく、発達段階に応じて自分たちで調べる力を身につけさせることが、少しずつ進んでいると言えます。

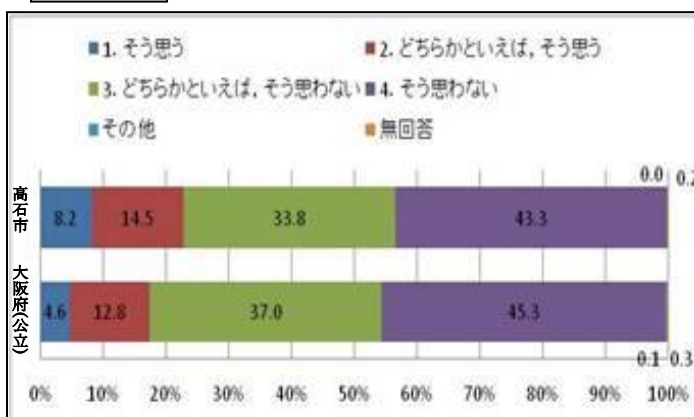
〔グラフ2〕からは、さらに学習内容が難しくなる中学校において、放課後学習等の補充の時間に期待する子どもが多くなっており、今後も継続的に実施することが子どもたちの学力向上への期待にこたえることとなります。

(グラフ1) ふだんの授業では、本やインターネットを使って調べる活動をよく行っている

小学校



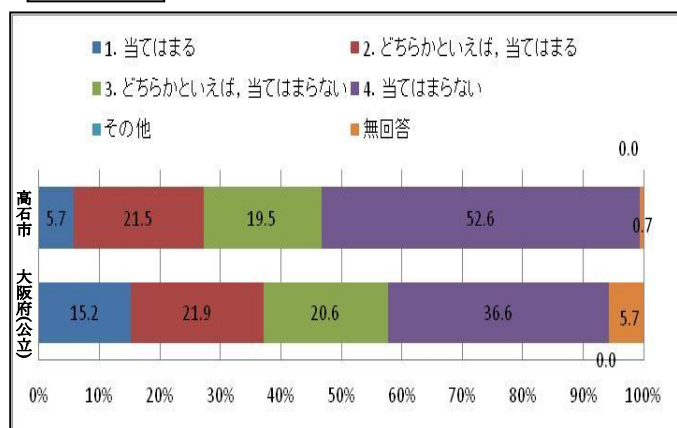
中学校



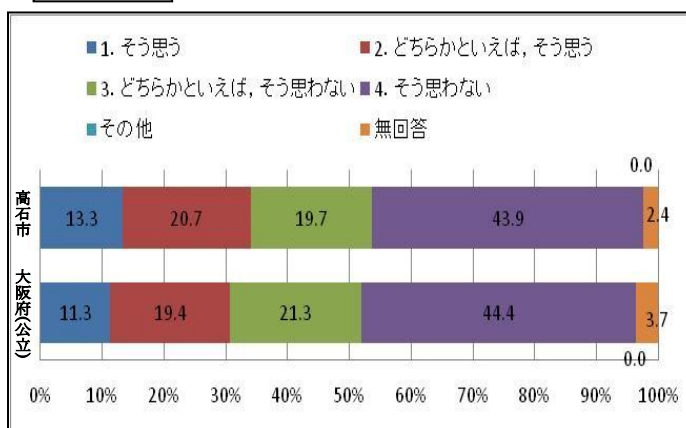
◆中学校において、調べ学習をする際に、ICT機器も活用しながら進んでいることがわかります。

(グラフ2) 学校で実施している放課後や休みの日の学習教室などは勉強に役立った

小学校



中学校



◆学習内容が、より難しくなる中学校において、補充学習などが子どもたちにとって、なくてはならないものになりつつあります。

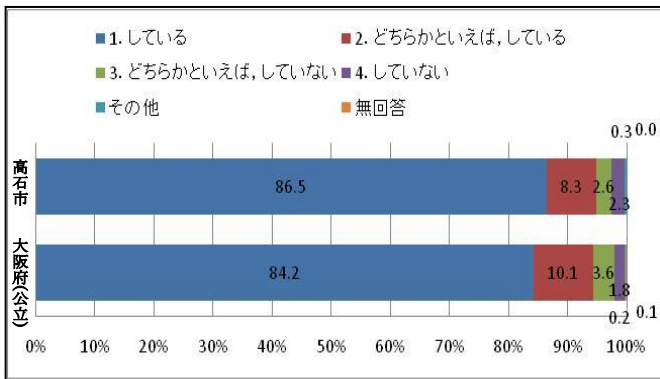
傾向 2：宿題への取組み、授業中の私語、さらに、間違っただけを発言したときの対応など、真面目に学習に取り組む姿勢が見られる。

〔グラフ3〕より、小中学校とも宿題に対して前向きに取り組む姿がうかがえ、府の平均を上回っています。

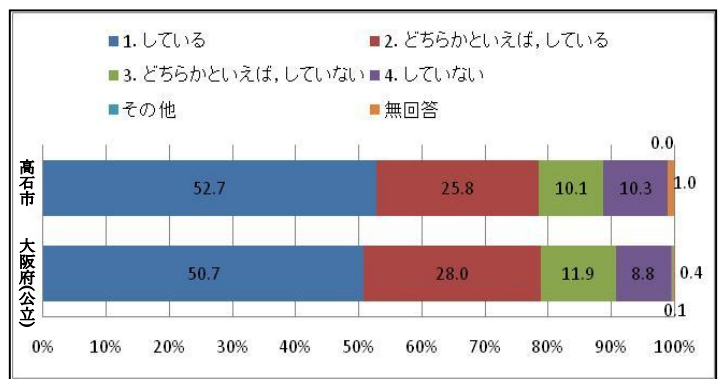
〔グラフ4〕からは、私語をすることに対して抵抗感を持つ子が多いことがわかります。また、〔グラフ5〕からは、友だちの回答への気遣いがうかがえ、学習に取り組む姿勢としては良い傾向にあります。この子どもたちの真面目さを、学校においても学習意欲そのものへと結びつける取組みが必要と考えられます。

(グラフ3) 学校の宿題をしている

小学校

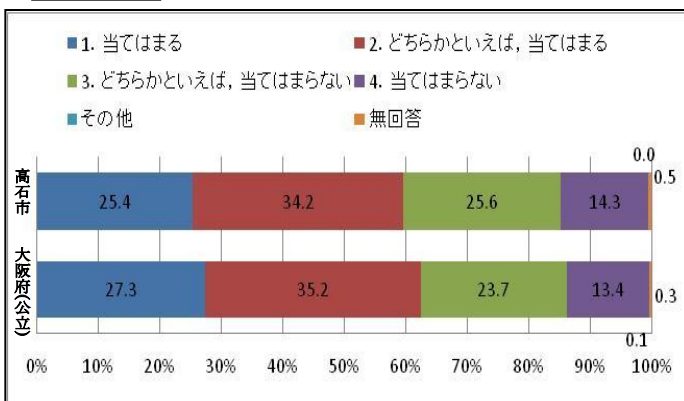


中学校

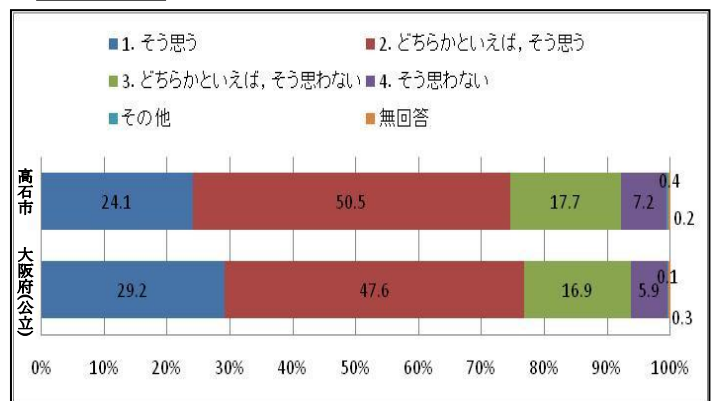


(グラフ4) 授業中に勉強以外のことで、友だちとおしゃべりすることがある

小学校

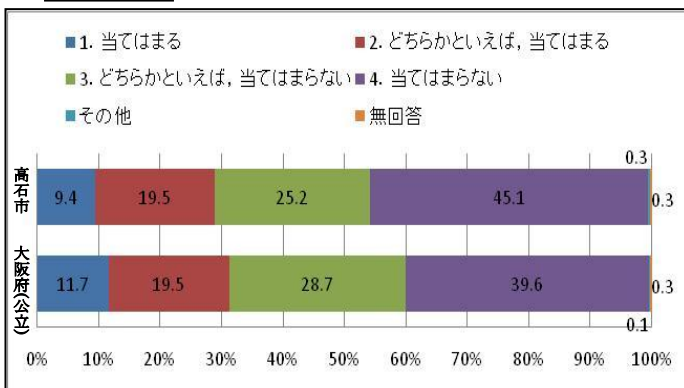


中学校

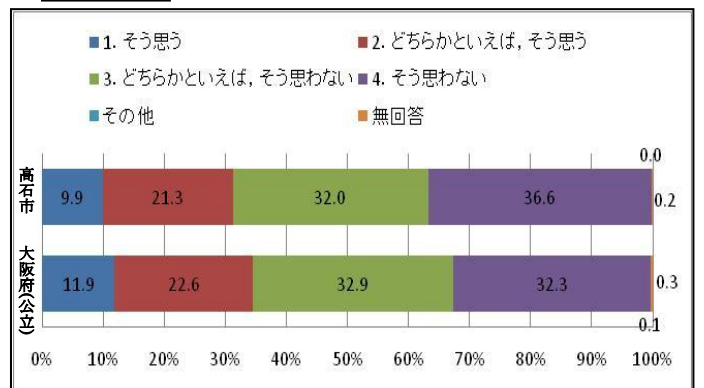


(グラフ5) あなたの学級では、間違っただけを発言したときからかわれることがある

小学校



中学校



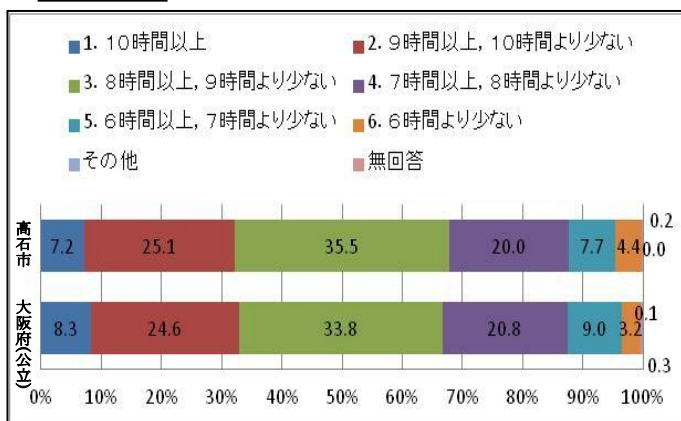
傾向 3：家庭生活における生活習慣や地域参加に課題がある。

〔グラフ6〕では、小学校では睡眠時間が全体的に短くなっていますが、中学生になると長い睡眠時間の生徒と短い睡眠時間の生徒が共に多くなり、少なからず生活習慣に課題が見受けられます。

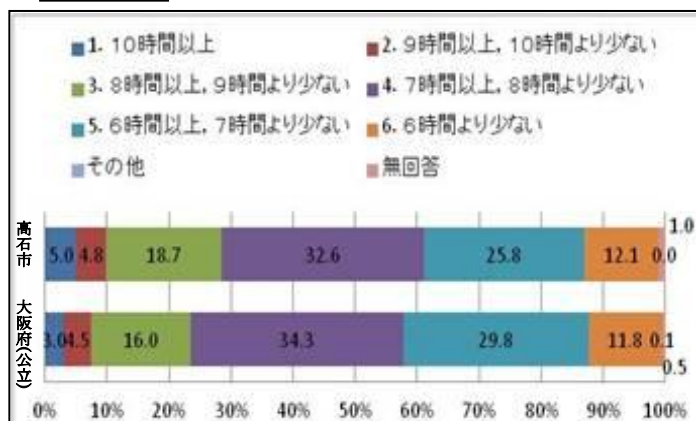
〔グラフ7〕では、家庭における地域参加が進展途上であることがうかがえます。特に、小学校で地域参加が低く、子どもたちには小学生の時点から地域の中できっと育つ意識を高める必要があります。

(グラフ6) 普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、睡眠をとることが最も多いですか

小学校



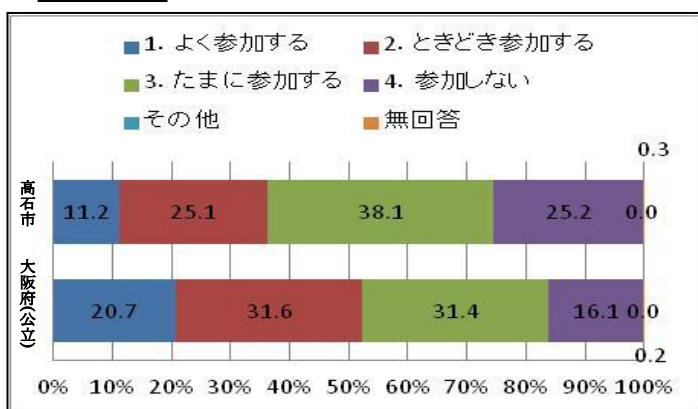
中学校



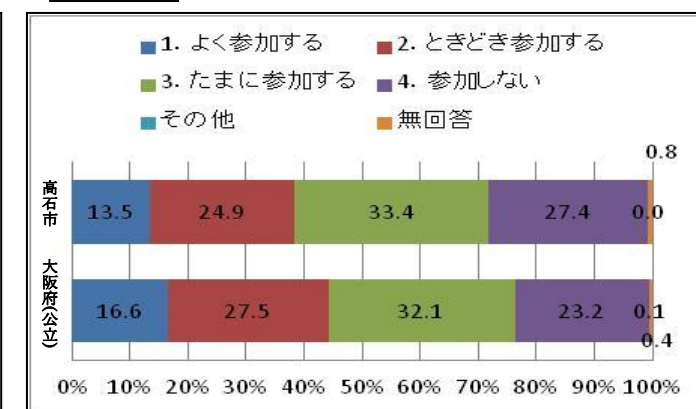
◆小学校では府平均と比べて全体的に睡眠時間が短く、中学校では、長い生徒と短い生徒の割合が多くなっています。二極化の傾向が進んでいるといえます。

(グラフ7) あなたの家の人は、学校や地域の活動に参加しますか

小学校



中学校



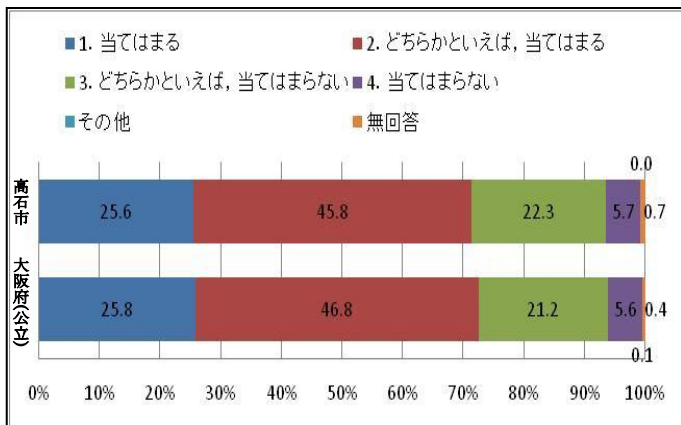
◆特に小学校で、地域参加がまだまだ伸びる余地があります。中学校では、改善傾向にあり、地域とともに子どもを育てたいという家庭の意識が高まりつつあります。

傾向4：授業規律の確立に課題がある。

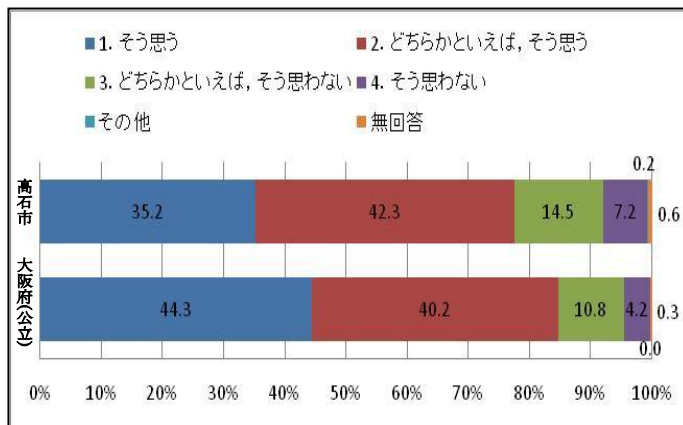
〔グラフ8〕では、きまりを守る意識が小学校から中学校にかけて減少傾向にあります。ただ、それ以上に〔グラフ9〕におけるけじめ意識の低さが顕著であり、学校、家庭の両面で取り組むべき課題です。

〔グラフ8〕 学校のきまりを守っている

小学校

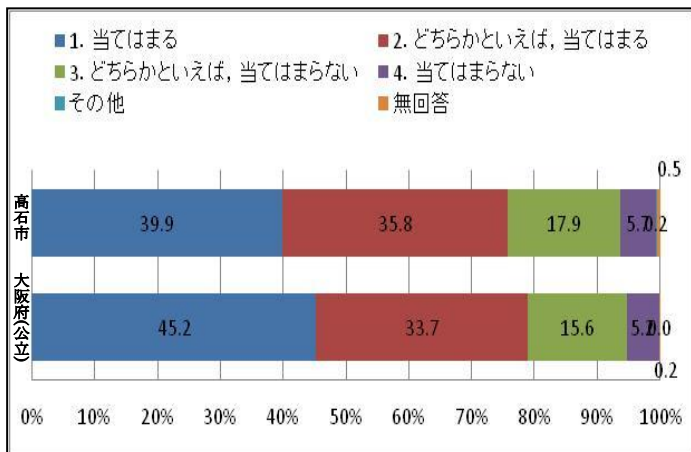


中学校

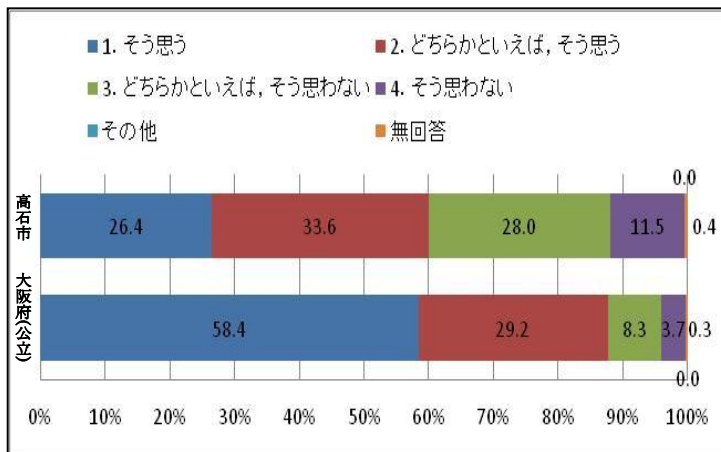


〔グラフ9〕 チャイムが鳴ったら席につくようにしている

小学校



中学校



◆中学校では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が大阪府と比べておよそ3分の2になっています。特に基本的な授業規律の徹底を図る必要があります。

アンケート結果から見えた課題

ここに取り上げたアンケート調査の内容については、高石市の子どもたちの学習状況や生活習慣の課題が見えるところを掲載しました。その中で、『傾向2』にあるように、学習への取り組みそのものや思いやりについては良好な傾向がありますが、『傾向3・4』に見られるように、学習意欲や家庭における生活改善には結びついていない課題もあります。

調査結果から

大阪府学力・学習状況調査の結果を分析・考察した結果は、一昨年度の全国学力・学習状況等調査から見えた課題である、

- ・ 考え方の筋道を立てて答えを導き出す経験の不足
- ・ 全体的な無答率の高さ

という点において、依然として解消されていないことがわかりました。学力面における対応策として、発表やグループ討議を取り入れた授業を増やすことや、「書く」ということを重視した活動を増やすよう、授業改善に取り組んできました。今後とも、よりいっそう力を入れて取り組んでいく必要があります。また、

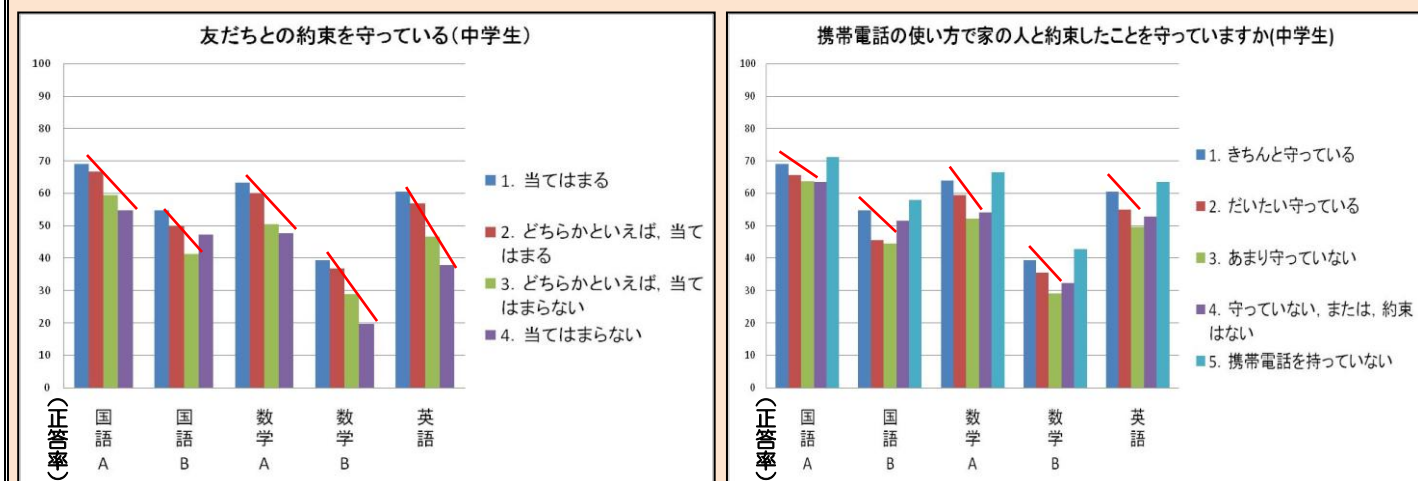
- ・ 睡眠時間等に見られる生活習慣
- ・ 家庭と地域連携の充実

という家庭生活の面においても、今までの「早寝、早起き、朝ごはん」運動や家庭及び地域との連携の取組みをさらに充実させる必要があることもわかりました。

児童・生徒アンケートから見えた新たな課題として授業を改善するだけでなく、授業をきちんと受けるということに対して高石市全体で、小学校と中学校で連携して取り組む必要があることがわかりました。また、基本的な約束事項を守ることは学力とも密接なつながりがあり（下部グラフ：生徒アンケートと学力調査の正答率とのクロス集計 参照）、これは生活習慣や地域参加といったことと同じく、小学校や中学校単独ではなく地域や家庭と一緒に子ども達につけていくべき力であると考えます。

次ページに高石市教育委員会及び学校の取組みと、地域・家庭の皆様にご協力いただきたい点を記載してあります。今後とも高石市の教育にご協力、ご支援をよろしくお願い致します。

〔参照〕 アンケート項目と学力の関係（高石市立中学校の平均：一部抜粋）



高石市教育委員会及び学校の取組み

☆教育委員会が中心となって取組んでいること

- ◆学習規律の確立をめざして授業の「はじめ」を重視した指導を行うと共に、家庭との連携をさらに進め、家庭学習や放課後等の補充学習の充実と授業改善とを両輪で推し進め、子どもたちの学習意欲を喚起する取組みを推進します。
- ◆各小・中学校では、各校工夫を凝らした学力向上のための施策を実施しています。さらに、その輪を中学校区に拡大し、合同の研修会や学力担当者会議等を開催することにより、情報交換と共有を行い、小中連携による学力向上のための取組みを行っています。
- ◆市の教育課題に応じた研修を積極的に行い、教職員の資質・指導力向上を図っています。
- ◆3つの朝運動(朝食・あいさつ・朝読書)の取組みを継続しています。
- ◆放課後や、長期休業期間に実施する補充学習へのボランティアを募集し、学校での学習のサポート活動を進めています。
- ◆幼小中の長期を見据えた連携に取り組み、公開授業等による研究成果発表と効果の検証を行いながら、子どもたちの課題に正対した取組みを進めています。
- ◆大阪府教育委員会と連携し、各学校での授業研究を中心とする校内研修の活性化を図り、授業改善に取り組んでいます。

☆各学校が現在取組んでいること

(下記の内容は必ずしも全学校で取組んでいるのではなく、各小中学校が実態に応じて取組んでいます。)

- ◆学習におけるつまずきの把握と補充指導の充実
 - ・放課後学習の実施
 - ・つまずきテストの実施
 - ・長期休業期間中の学習会の実施
- ◆指導内容・指導方法の工夫の推進
 - ・習熟度別授業を取り入れた、少人数指導や複数教員による指導等、きめ細かな指導の充実
 - ・基礎・基本の徹底と繰り返し学習の実施
 - ・実験・観察などの活用場面を取り入れた授業研究
 - ・児童・生徒のコミュニケーション能力を高めるため音読・話し合い・発表など子どもたちが授業の中で聞いたり、話したりする学びあいのある授業展開の工夫
 - ・児童・生徒が不得意とする記述式の問題等への対応のための指導工夫
- ◆読書活動の一層の推進と充実
- ◆学習規律の徹底を図り、より一層の「落ち着いた授業」への取組み
- ◆あいさつ運動など基本的な生活習慣の向上のための取組み
- ◆一人ひとりが尊重される集団づくりの実現
 - ・人権教育及び道徳教育のさらなる推進

地域・家庭に協力いただきたいこと

- ◆「決まりを守る」ことの大切さを学校と共有していただき、携帯電話やゲーム機の使用など、家庭におけるルール作りと、そのルールの尊重について、子ども達と話し合っていたきたいと思います。
- ◆子どもの宿題の確認や、学校の予習や復習等の自主的な家庭学習に対する意欲向上のご協力をお願いいたします。
- ◆ご家庭における読書の機会向上や子どもへの啓発についてご協力をお願いいたします。
- ◆学校のさまざまな学力向上等の取組み(授業支援・図書ボランティアや、放課後学習活動のボランティア等)についてご協力をお願いいたします。
- ◆PTA活動へのご参加とご協力をお願いいたします。
- ◆各中学校区の「すこやかネット」の活動へのご参加とご協力をお願いいたします。
- ◆学校と共にあいさつ運動や、早寝・早起き・朝ごはん運動など、基本的な生活習慣の向上のための取組みへのご協力をお願いいたします。

小学校国語


【案内状】

**みどり公園 子ども夏祭り
たいこ演奏会・体験会**


あおばたいこクラブでは、子ども夏祭り、たいこ演奏会と体験会を行うことになりました。たいこの音を聞く、元氣になりますよ。いっしょに楽しんでみませんか。

■ たいこ演奏会
7月16日(土) 午後5時から午後6時まで、たいこ演奏会を行います。席は十分用意していますので、みんなで来てください。

■ たいこ体験会



あおばたいこクラブ
●お問い合わせ●
06-XXXX-XXXX



子ども夏祭りのおしらせ 日にち：7月16日(土)・17日(日)
時間：午後4時～8時
場所：みどり公園

	16日(土)	17日(日)
イベント広場	5時～6時 たいこ演奏会	5時～6時 ピンゴ大会
体験コーナー	5時～6時 うちわ作り 水でつぼう作り	5時～6時 うちわ作り 水でつぼう作り
	7時～8時 おみこしコンテスト	7時～8時 たいこ体験会

★イベント広場
・たいこ演奏会（席は十分用意していますので、みんなで来てください。）
・たいこ体験会（参加したい人は、動きやすい服そうで来てください。）
・おみこしコンテスト
・ピンゴ大会

★体験コーナー
・うちわ作り 所要時間 約60分
・水でつぼう作り 所要時間 約60分

★屋台コーナー
・たこやき
・やきそば
・かき水

・おいしいもの、たのしいものがいっぱいあります。
・ヨーヨーつり
・金魚すくい

【子ども夏祭りのポスター】

3 次は、木下さんのまちの【子ども夏祭りのポスター】です。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

一 木下さんは、あおばたいこクラブに所属しています。クラブでは、子ども夏祭り、たいこの演奏会と体験会をするので、【案内状】を作りました。【案内状】のたいこ演奏会の説明をしているところにならって、
[] にあてはまる内容を、二つの文で書きましよう。

解説

上記の右側【子ども夏祭りのポスター】をもとに、案内状を作る問題です。

- ① ポスターより「たいこ体験会」の「実施日時」、「参加するにあたっての連絡」等の情報を読み取ること。
 - 「7月17日(日)」の「午後6時から午後7時」(日時)に「みどり公園」の「イベント広場」(場所)で【たいこ体験会】がある。
 - 参加するにあたっての連絡は「参加したい人は、動きやすい服そうで来てください。」
 - ② たいこ演奏会の文章を参考にして、「2つの文」でかくこと。
 - ・『7月16日(土)、午後5時から午後6時まで、たいこ演奏会を行います。』
 - ・『席は十分用意していますので、みんなで来てください。』

『与えられた条件に従って、読み取った情報を使い文章を書く。』ことが求められます。
- ◆「普段から文章を書くこと」を行い「文章を書き慣れること」、「文章、絵・図、グラフ等から情報を読み取ること」といった力が必要です。

小学校算数

1 次の計算をしましょう。

(1) $100-15-15-15$

(2) $30-2.1$

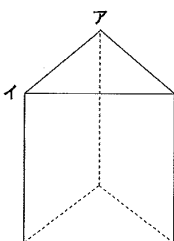
(3) 2.8×4

(4) $5 \div 4$ (割り切れるまで計算しましょう。)

(5) $1\frac{2}{5} - \frac{4}{5}$

(6) $16-6 \times 2-1$

6 下の図のように、底面が正三角形で、側面が正方形になっている立体があります。アイと長さと同じ辺の数は、アイもふくめて何本あるでしょう。



解説

1の(2) (整数) - (小数) の問題です。

下の(正)のように30の見えない小数点を考えて、数の位を揃えることが求められます。(誤)のように計算し、誤答した児童が多かったという結果になっています。

$$\begin{array}{r} \text{(正)} \quad 30.0 \\ - \quad 2.1 \\ \hline 27.9 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} \text{(誤)} \quad 30 \\ - \quad 2.1 \\ \hline 0.9 \end{array}$$

6 「底面が正三角形」、「側面が正方形」という情報をもとに長さと同じ辺の本数を数える問題です。見た目の長さにとらわれ、底面の正三角形の辺の本数を答えた児童が多かったという結果になっています。

◆ 整数、小数、分数の計算ができることはもちろん、整数、小数、分数が交ざった計算ができる力が必要です。また、身の回りにある様々な立体に実際に触れる体験を積むとともに「論理的に考える」力が必要です。

次の「先生との会話」を読んで、あとの問いに答えなさい。

【先生との会話】

野村さん

吉川先生

野村さん

吉川先生

きのう、マヨネーズを作ってみようとしたのですが、うまくいきませんでした。なぜでしょうか。どのように作ったのですか。

まず、酢、卵黄、塩、こしょうをボールに入れて、よく混ぜました。次に油を入れてかき混ぜたのですが、油と他の材料が分離してしまい、混ざらなかつたのです。

なるほどね。酢と油は、水と油のように本来分離してしまうものです。しかし、方法があります。卵です。卵黄には酢と油の両方を結びつける性質があるレシチンという物質が含まれています。レシチンのような物質は、界面活性剤かっせいかいといって、水と油を結びつける性質を持っているため、食器の油よごれを落とす洗剤せんざいにも使われています。マヨネーズは、酢と卵黄を混ぜてから油を入れますが、油を一度に入れてしまうと、うまく混ざりません。卵がアの役割を果たすことで初めて、マヨネーズになるのです。油と他の材料をうまく混ぜるコツは、よく混ぜた他の材料に油を少しずつ入れながら混ぜることですね。

ア

にあてはまる言葉を、「先生との会話」から抜き出なさい。

解説

5 会話からすでに説明されている卵の役割を抜き出す問題です。

○卵が何の役割を果たすのかを、前の文章から適切な言葉を「探して」、「抜き出す」。

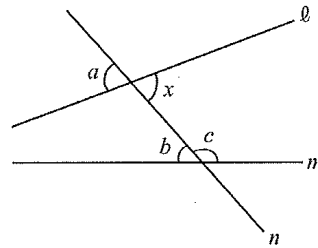
- ・文章から卵の役割を説明した適切な言葉を探した場合、「水と油を結びつける（性質）」、「界面活性剤」といった言葉を見つけることができます。
- ・『アの役割を果たすことで…』という文章に適していることから考えると、「界面活性剤」の方が適していることとなります。

◆このように「文章の意味をつかんで読む」、「問題の意味を把握して、合う言葉を探す」、その中で「文の意味が成り立つ言葉を選び出す」力が必要です。

6 次の各問いに答えなさい。

(1) 右図のように、直線 l, m に直線 n が交わっています。このとき、次のア～エのうちから、正しいものを1つ選びなさい。

- ア $\angle x$ の錯角は $\angle a$ である。
- イ $\angle x$ の錯角は $\angle b$ である。
- ウ $\angle x$ の錯角は $\angle c$ である。
- エ $\angle x$ の錯角は $\angle a, \angle b, \angle c$ のいずれでもない。



解説

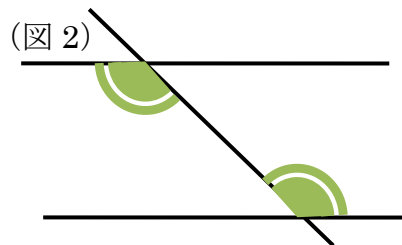
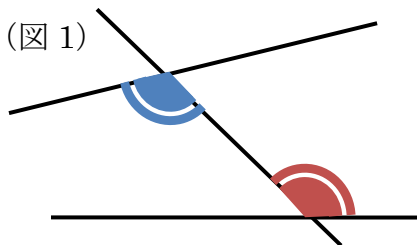
6の(1) 錯角の位置関係になっている角を選ぶ問題です。

学習する際には、下記の(図1)のような位置にある2つの角を「錯角」と定義します。

しかし、そのあとで下記の(図2)のように2つの直線に1つの直線が交わるとき、「2つの直線が平行であれば、錯角は等しい」という性質を学習します。

その後の学習でも、錯角については、この性質を使うことが多くなります。

その思い込みが強いために、等しい角である「アの対頂角」や「エのいずれでもない」を選んだ生徒が多くなっています。



◆図形の問題では、標準的な図では理解できているが、「少し向きが異なる」、「形が変わってしまう」とわからなくなってしまうパターンがあります。

「こんな形ではどうだろう?」「この場合はどうなるのかな?」と習ったことを用いて、いろいろ試してみる「柔軟な見方」ができることが必要になります。

中学校英語

- 6 留学生のメアリー (Mary) は、明日、絵美 (Emi) と健 (Ken) とハイキングに行きます。メアリーは、電車の時刻表 (Train Schedule) を見ながら待ち合わせの時間などを確認するために、二人へメールを送りました。(1) と (2) の下線部に入る最も適している英語を、次のメールや時刻表から 1 語ずつ解答欄に書きなさい。

(注) take 乗る train 電車

Train Schedule			
	Kansai Station	Kinki Station	Hanshin Station
Red Train	7:30	7:40	7:55
Green Train	7:40	—	7:50
Blue Train	7:50	8:00	8:15

- (1) Where will Mary meet Emi?
She will meet Emi at _____ Station.
- (2) Which train will Mary take?
She will take the _____ Train.

解説

6の(2)電子メールの内容と資料の情報を照合し、適切な電車名を書き出す問題です。電子メールから「どの駅で友達と会うのか」、「何時に会うのか」という情報を読み取り、「時刻表と照合」して乗る電車を選ぶ必要があります。

○私は「Kansai ST」から電車に乗る。

○「Kinki ST」でEmiと待ち合わせている。

○8時に「Hanshin ST」でKenと待ち合わせている。

「どの電車に乗るのか」という問題を「どの駅に電車でいくのか」という内容に読み違え解答した生徒が多かった。

◆問題の英文をきちんと読み取る力、そして、上のメールの内容と下の時刻表の情報を読み取って組み合わせて考える力が必要になります。

各設問の正答例

小学校国語

3 ー

■たいこ体験会

7月17日（日）、午後6時から午後7時

まで、たいこ体験会を行います。参加したい

人は、動きやすい服そうで来てください。

小学校算数

1 (1) 55

(2) 27.9

(3) 11.2

(4) 1.25

(5) $\frac{3}{5}$

(6) 3

6 9 (本)

中学校国語

5 一 界面活性剤

中学校数学

6 (1) ア イ ウ エ

中学校英語

6 (1) K i n k i

(2) R e d